

平成29年度第16回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 平成30年1月15日（月） 13：14～16：35
- 2 場 所 3号館8階教育委員会室
- 3 出席者 <教育委員会>
雪村教育長 山本委員 梶木委員 伊東委員 福田委員 今井委員
<事務局>
川田教育次長 岡田スポーツ担当局長 浜本総務部長 大谷学校教育部長
日下社会教育部長 後藤教育施策推進担当部長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議内容

（雪村教育長）

それでは、ただいまより教育委員会会議を始めます。

本日は、議案6件及び報告事項4件です。このうち教第59号議案、教第60号議案、教第61号議案及び報告事項1については、教育委員会会議規則第10条第1項第2号により、教職員の人事に関する事。教第62号議案については同項第3号により、長の作成する議会の議案に関する事。教第64号議案、報告事項2及び報告事項4については、同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれがある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして、非公開としたいと思いますが、御賛同いただけますでしょうか。

（6名の賛成により非公開案件を決定）

（雪村教育長）

それでは報告事項3、平成29年度全国学力・学習状況調査、神戸市学力定着度調査の結果報告書について、総合教育センターより説明をお願いします。

報告事項3 平成29年度全国学力・学習状況調査、神戸市学力定着度調査の結果報告書（データ版ならびにアイデア版）について

（浦川教科指導担当課長）

平成29年度の全国学力・学習状況調査、神戸市学力定着度調査の結果報告書です。平成27年度から神戸市学力定着度調査を小学校4年生、5年生、中学1年生、中学2年生に拡大して、全国調査と合わせた結果、小4から中3までの6年間継続して調査することが

できるようになりました。

学識経験者の方や各教科の研究部の代表校長等をお招きして、神戸市基礎学力向上推進委員会を8月から10月にかけて3回実施しました。調査結果からさまざまな成果と課題を踏まえて、その分析や今後の改善の取り組みについて、専門的な見地から御意見をいただき、その内容をもとに報告書をまとめました。

報告書は2種類あります。データ分析版と書いている報告書は、いろいろなデータを盛り込んでいるので分厚くなっていますが、これは各学校に1冊ずつ配付します。課題を踏まえた指導方法や授業改善などのポイントをまとめて、授業アイデアやすぐに使えるワークシートなどを盛り込んだものが授業アイデア版です。こちらは全教職員に配付します。そして、ホームページ等でも近日中に公開する予定です。

では、報告書をかいつまんで御紹介します。データ分析版をごらんください。

全体で10部の構成になっています。4ページから6ページは、全国調査あるいは神戸市調査の調査結果の概要になっています。

7ページから70ページまでは、それぞれの教科に関する調査の結果について、小学校の国語から中学校の英語まで、教科ごとに記載しています。

例えば、11ページと12ページをごらんください。一番上にあるとおり、小6の全国調査の国語Aの問題を分析しています。(2)の分類・区分別集計結果を見ていただくと、全国平均との比較が一番右の欄にあります。例えば「書くこと」についてはマイナス1ポイント。「読むこと」についてはプラス1.2ポイントになっているという見方です。

(3)正答数分布状況ですが、これは15問正解した子がどれぐらいの割合にいるかというものです。棒グラフが神戸市、折れ線グラフが全国平均となっています。ここで見ると、例えば正答数が1問から7問までのいわゆる下位層、あるいは正答数が14問、15問という上位層については、折れ線グラフより棒グラフが若干上回っている形です。一方で、正答数10問から13問の間層がやや下回っている状況です。ですから、明らかなほどの二こぶというわけではありませんが、上位層と下位層が全国平均より少し高い傾向にあります。

また、12ページでは問題番号ごとに網掛けをしている部分がありますが、網掛けをしている問題が全国平均を下回った問題となっています。例えば下から5段目の「漢字を書く」と言うと、「4年生のきぼう者」という問題で、「希望」という漢字を書く問いなのですが、一番右を見ていただくと、神戸市と全国との差がマイナス6ということで、書けない児童がかなり多かったという見方です。

続いて、児童生徒質問紙調査です。76ページをごらんください。

全国調査の児童生徒質問紙ですので、小6ないしは中3の児童生徒に聞いた結果です。例えばQ15をごらんいただくと、児童生徒が授業でノートに学習の目標やまとめを書いていたかという質問です。これについて、当てはまるや、どちらかと言えば当てはまるという回答をした割合を見ると、全国平均に比べると低くなっています。昨年度よりも好転していますが、全国との比較で言うと、まだ課題が見られます。

続いて84ページをごらんください。

Q28は、携帯やスマホをどれぐらい使っていますかという問いです。この横のグラフの一番右端は持っていないという回答ですが、神戸市の小6で言うと28.6%が持っていないということです。これを逆算すると、小6の時点で約7割の児童が携帯を持っているということです。全国平均に比べると、やや所持率が上回ります。一方、中3の所持率を見ていただくと、ほとんど差はありません。また、下の縦の棒グラフですけれども、これは携帯をどれぐらい使っているかと学力調査の結果を比べたものです。携帯やスマホの使用時間が長いほど、学力調査の結果は低調になっていることが言えると思います。ただし、この棒グラフの一番右端が持っていない子の回答率なので、持っていないと回答した場合も若干正答率が低くなっています。いろいろな家庭事情等々があるのかもしれませんが。

110ページからは全国調査で、今度は学校に対しての質問です。例えば118ページを見ていただくと、Q28の算数・数学の授業でティームティーチングを行ったかどうかの割合ですが、小学校では行っていないと答えた学校を除くと8割強、同じく中学校でも83%ぐらひはティームティーチングを行ったということです。かなり全国平均を上回っています。算数・数学は、国語に比べて成績そのものはいいですが、その裏打ちとしてこういったことに取り組んでいる成果があるのかもしれませんが。

126ページからは、今度は神戸市独自の神戸市学力定着度調査の学習状況等に関する教員調査です。

136ページからは、同じく神戸市学力定着度調査の教科に関する調査と学習に関する意識調査——いわゆる「神戸っ子チャレンジ10」です。例えば、137ページの一番左上は、近所の人へ挨拶をしている割合と正答率を比べたものです。基本的には挨拶をしている子供のほうが正答率が高い傾向にあります。その下の家族への挨拶に関しても、挨拶をしていると答えている家庭環境が比較的良好な児童生徒は、やはり正答率が高いということが言えるかと思えます。

146ページです。家族に学校や友達のことをよく話しているという児童生徒のほうが正答率が高いという傾向になっています。

こういったものをデータ分析版ということで、各学校にお示ししたいと考えています。

続いて、もう1冊の授業アイデア版です。これは全教職員に配付します。1ページ目の目次を見ていただくと、こちらの冊子は8部構成となっています。

5ページをごらんください。神戸市調査と全国調査を比較しています。5ページが神戸市調査、6ページが全国調査です。5ページの上を見ていただくと、それぞれ小4、小5、中1、中2における国語、算数・数学の参考値——これは神戸市調査と類似の問題をやっている他都市の約15万人と比べたものですが、見ていただくと、中学のほうが特に良好な成績を残していることが言えます。

5ページの下グラフは、同一集団で比較しています。同一集団と言うのは、平成26年度に小学校5年生であった児童が、平成28年度に中1、平成29年度に中2になったとき

にどう変わっているのかということです。集団は同じですが、学年が上がるにつれて結果は上昇傾向にあり、特に算数・数学の伸びが大きいことがわかります。

6ページは同様に全国調査の小6、中3を比較したものです。上のグラフを見ていただくと、こちらは全国調査です約100万人が母数になりますが、やはり中学校の数学が非常に良好な結果だと言えます。下のグラフは少し見にくいですが、上の点線のグラフが中学校3年生、下のグラフが小学校6年生のときで、これも同一集団で見えています。平成26年に小6であった児童が、3年後に中3になったときどう変わっているかを見ていただくと、いずれもこの中学校のグラフが小学校のグラフを上回っていて、全国平均も上回っています。ここでもやはり算数A・数学Aが小学校では全国平均よりかなり下だったのが、相当上に上がってきています。同一集団で見てもこういった比較ができます。

7ページからは力のつく授業推進プランという形で、現在KECで進めている授業改善プランや、16ページ以降に記載している、それぞれの教科ごとの指導方法の工夫・改善のポイントを示しています。

また、19ページを見ていただくと、これは小学校国語の授業改善アイデアですけれども、左半分が今年度出題された全国調査の問題です。こういった全国調査の問題を踏まえて、どういった授業の導入、展開、まとめをするのかをお示したものです。ぜひ周知を図り、学力の向上に努めていきたいと考えています。

以上です。

(雪村教育長)

平成29年度の全国学力・学習状況調査、及び神戸市学力定着度調査のデータ版及びアイデア版の説明が終わりました。ぜひ御意見や御質問、御指摘をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

(今井委員)

授業アイデア版について、今回は小学校も中学校も全部1冊に入っていますが、校種によって、例えば小学校は小学校で、中学校は中学校で分けるという考えはどうかというのが1点です。

また、小学校も中学校も数がたくさんあって、その中のレベルにも相当違いがある中で、今回の調査結果を踏まえて授業改善をするときに、一律にはなかなか難しいところがあると思います。レベル別に、もう少しきめ細かなアイデアやサポートができるのではないかと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

(浦川教科指導担当課長)

小学校、中学校ごとのアイデア版を分けてはどうかという議論も内部でありましたが、例えば中学校からすると小学校がどんな授業をしているのかなと思うこともあり、逆もま

たしかりといった事情もあって、小学校と中学校はむしろ分けないほうがいいのではないかということになり、今回1つにさせていただきました。

あとは、やはり委員がおっしゃるとおり、教員の年齢の違い、キャリアの違い、もちろん授業力の違いも当然あります。この冊子を配るだけではなく、例えばKECでは、初任の方向けの研修や8年目の方の研修など、節目ごとに研修を行っています。あるいは、課題がある教員について、校長OBを中心とするいわゆるサポーターを2週間に1回程度派遣して授業を見てもらい、レベルに応じて改善・指導する取り組みを行っているところです。

(梶木委員)

毎年、学力向上のための特別な予算をつけて事業を実施する学校がありますが、小学校全員の4年生からの状況が見られるようになってきているのであれば、例えばどういう事業が効いていたのかということは、何かわかるのでしょうか。これをやったからこの子供たちはすごく伸びたというようなことです。先生も違うし、いろいろ条件も違うのはわかるのですが、毎年あれもやってこれもやるとすごく力を入れて学力向上に取り組んでいる中で、先生方も頑張っておられるので、こういうことをすると全員伸びたよという結果が見えると、そのやり方を普及していこうということになると思います。理想論かもしれませんが、それが見えることによって、もっと対策が練れるようになると思います。そもそも全ての子供がそれぞれの成長に応じてできるようになるのがいいというのが、この学力調査のあり方はずなので、もう少し利用されないと、これはいつも大変だろうなと思います。

中学校の数学の結果はいつもいいですね、でもなぜでしょうね、小学校4年生ぐらいから頑張っているから中学校になったら何となく成果が出てくると思いますというような話とはまた違うところで何かあるのではないかなと思うのですが、どうですか。感触として何かありますか。

(浦川教科指導担当課長)

やはり小学校で言うと、国語A——いわゆる基礎的な部分の結果がここ10年ぐらいで一番大きな課題になっています。授業時数がなかなか十分確保できない部分があるので、いわゆる帯の時間、15分ぐらいを活用して書き取りなどを徹底した学校は、ことしは国語Aが改善されたという報告をもらっています。それを無理矢理全部の学校でやるのは難しいでしょうが、そういった事例も紹介していきたいと思っています。

小規模な学校がかなりふえていることもあり、なかなか先生自身の手が回っていない点もあると聞いています。そういったこともあって、例えば、学ぶ力・生きる力向上支援員の拡大をお願いしたいし、学ぶ力・生きる力向上支援員で言えば、やはり長い時間配置している学校は、全国調査等でも結果が改善していて、成績低位層が減っているといった

効果はあります。ただ、子供の学力が変わったときに何が一番効いたのかを切り分けて分析するのは非常に難しいです。いろいろな施策をやっている中で、切り分けてこれがあつたからというのは、数値からというよりは、校長先生などから取り組みのお話を聞いて分析する部分のほうが大きいと思います。

(森総合教育センター首席指導主事)

今申し上げたようにこれがというのは難しいところではありますが、校長等に聞き取りをして、その学校で成績が上がった原因はここだろうというところまではつかんでいます。それについては、先ほど申し上げたように、全市に周知していきたいと思っています。

(梶木委員)

例えば、帯の時間を使って国語の書き取りをやったのが効果的だったとされるのであれば、それを全市でやりましようと言うのはなかなか難しいですか。

(森総合教育センター首席指導主事)

各学校がカリキュラムを編成することになっていきますので、こういう効果がありましたよ、これをやったらどうですかという呼びかけは可能ですけれども、必ずこれをやってくださいというのは少し難しいと思います。

(梶木委員)

学力の中でも国語は基本の「き」です。今、大学で問題を出しても、そもそも何が書いてあるか、問題の意味がわからないという子もいます。読解力や、基本の読み書き、あとはそろばんと言われますが、そのあたりを小学校のときにもっと強化できるようにしてもらえたらと思います。何が効いたのかよくわからないとなるのであれば、「ことしは神戸市はこれでいく」ということで、施策としてこれを効かせてみようと思いたらと思いますが、危険でしょうか。

(森総合教育センター首席指導主事)

いいえ、そういうことはないと思います。小学校に関しては、やはり基礎・基本の習得に課題が見えていますので、さまざまな部分で各校に取り組んでいただけるようなアナウンスはしています。

(梶木委員)

「希望」という漢字が書けないのは結構ショックですよ。

(森総合教育センター首席指導主事)

そうですね。4年生で習う字です。

(梶木委員)

習字でも書きそうな字ですし、その字が書けないのだと思います。そういう子はいずれどこかで書けるようになるのでしょうか。4年生で書けないといけないのが、6年生で書けていなければ、ずっと書けないままですか。

(森総合教育センター首席指導主事)

いずれ書けるようにはなりますが、学習指導要領にはそれぞれの学年の基本的な習得文字が示されているので、そこは学年の最後に振り返りながら、きちんと習得していくことが必要です。

(雪村教育長)

いずれ書けるようになったらいいですが、最近であればスマホを使いこなして、自力で書けるようになる 때가なかなかこないという、怖い時代が来てしまっていますね。

(浦川教科指導担当課長)

希望という字を書ける、書けないではありませんが、中学校3年生の国語Aは全国平均より少しいい結果になっています。ですから、総じて言うと押し上げてきてはいます。そのあたりの謎はまた解明したいと思います。

(雪村教育長)

山本先生、いかがですか。

(山本委員)

私が小学校で勤務していたときに、この全国学力・学習状況調査の実施が始まりました。これは単に学力の中の指標の1つであって、ただ平均点を上げればいいというものではないということをしっかりおさえながら、でもその指標の1つとして考えたら、やはりわかる・できるということは子供にとっては楽しく、その結果として学校生活が安定するようになると思います。その点で、この資料をつくっているという意味ではすごく情報が集約されているなと思います。

この授業アイデア版の冊子が現場の各先生に配られるのですが、先ほども今井先生が言われたように、私自身も現場へいたときには、なかなか大変で時間がないことがありました。実際に現場で担任をしているときに、この分厚さの冊子が読めるかということ、あしたの授業の準備もしないといけない中で、なかなかそんな時間はありません。全てのことをおさえているという意味では非常に大事な資料だと思いますし、それはもう感服しま

すが、ただこれを現場と一緒にどう積み上げていくかなれば、これから3年間はこれを徹底してやりましょうというようなインパクトが大事ではないかなと思います。わかればやってみようと思うし、見て目にとまればいいと思うし、とにかくこれだけやってみようという形になればやりやすいと思いますが、あれもこれもとなると、なかなかできません。観点を絞っていく必要があると思います。

これが子供たちにとって大事であるということはすごくよくわかりますが、ただ、先生方が帰宅している時間や学校に来ている時間などいろいろなことを考えてしまいます。その両方を勘案したときに、多忙化の問題が続くとしたら、どう現場におろしていくことが現場力の向上につながるかなと思います。資料としてはトップダウン的なものがあるかもしれませんが、最終的には今も言われたように教科等研究部の校長先生方と相談しながら、現場と一緒につくっているというところは大変評価できます。そこをさらにボトムアップしていくことが大事ではないかなと思います。

来年上げたらいいいという話ではなくて、やはり継続してずっと上げていくということが必要で、そうなるためにどうするかと言うと、例えば9ページ・10ページにあるように、めあてを設定することや、まとめを振り返ることがあります。特にめあての設定については小学校も中学校も割合が上がってきているけれども、振り返りは難しい部分もあります。このあたりはすごく大事なところだと思うので、こういう調査が続いていく中では3年間はここに絞って徹底的にやってみようというようなことも、大事な点になるのではないかなと思います。この資料を改めて見せていただきました。

どう継続させていくかということが一番大事だと思います。来年や2、3年かけて上がるのではなくて、子供たちがずっとわかること・できることを楽しめるようにもっていただければ大変ありがたいと思います。

(雪村教育長)

福田先生、何かございませんか。

(福田委員)

この授業アイデアの中身を見ると、点数が余りよくなかった例を取り上げて、教え方も含めてそれをどう改善していこうかということのを非常にうまく検討されているように思います。

ただ、先ほどからずっと議論が出ていますが、それはやはり徹底して教えたほうがいいです。個々人によって苦手な問題、どうしてもわからない問題はあるわけで、全体として三十何%しか正答率がない問題もあるわけです。やはりそれをつくらないように、苦手を克服するように丁寧に教えるという意味で、このアイデア版、あるいはここに載っていない例も含めて、点数が悪い問題を集中的に教えること、それが理解度を高めていく1つの方法だと思います。全てのテーマをと言うと、それはなかなか至難のわざであって、先生

の時間もそんなにないので、点数の悪いものに絞って徹底的に理解してもらおうというやり方もあると思います。

こういう分析をぜひ生かしていただきたいと思います。

(雪村教育長)

ありがとうございました。

伊東先生、何かございませんか。

(伊東委員)

このデータは毎年見させていただいて、非常にいいなと思っています。95ページにありますが、今度は日曜日の部活動の状況が知りたいなと思っています。それと、その前のページのネットに関する設問も、市長があれだけ積極的に言われているので、細かく聞いてみたいと思います。実際はもう少しやっているのではないかなと思うところがあります。

Q42は、時期からすると、中学1年生は多分まだ入部していないということで、中学2年生でぐっと割合が上がってくるということはあるかと思っています。今後、日曜日のクラブ活動というのはすごく熱心な先生にとっても気になる場所ですし、逆に負担に考えられている先生にとっても考えどころだと思うので、また別の機会でそういうデータがあれば教えていただきたいなと思いました。

(雪村教育長)

ありがとうございました。

ほか、特によろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

それでは、今いただいた意見も踏まえて、またよろしく申し上げます。

続いて教第63号議案、平成30年度全国学力・学習状況調査の参加と結果の公表方針を定める件について申し上げます。

教第63号議案 平成30年度全国学力・学習状況調査の参加と結果の公表方針を定める件

(浦川教科指導担当課長)

平成30年4月に実施されます全国調査への参加と結果の公表方針を定める件です。

まず参加について、1ページをごらんください。

平成30年度調査の概要です。（１）からそれぞれ調査目的、名称等々です。

（３）で参加校、参加想定人数を記載しています。小学校1万2,630名ということで、ことしが1万2,154人だったので500人ぐらい多くなります。中学校は1万1,615人ということで、ことしが1万1,300人余りでしたので、これも300人ぐらい多くなります。

特徴的なことを申し上げますと、（４）の調査事項について、来年度は3年に1回実施している理科が追加されます。

2ページの（５）ですが、実施日は4月17日です。理科以外に特筆することを（６）に書いていますが、平成31年度から中学校では英語についても調査を実施することになっていきます。それについて事前に検証するため、来年度モデル実施をしたいということです。

文科省からは、神戸市でも2校ほど参加をと呼びかけがありました。指定都市は2校となっていますけれども、本市では井吹台中学校と、特別支援学校から青陽須磨支援学校にお願いしたいと考えています。こういった形で、来年度2校を抽出して英語の予備調査もやることになっています。

3ページをごらんください。英語の予備調査についてまとめています。

英語については「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能全部を調査することになっています。例えば「読むこと」や「書くこと」、あるいは「聞くこと」であれば、国語や数学と同じように記述で対応できますけれども、今度は「話すこと」が加わっています。「話すこと」については、1クラス当たり15分程度で実施する予定ですが、パソコンが必要になります。文科省が送ってくるソフトウェアをパソコンにインストールして、生徒が話すものをヘッドセットから録音して、文科省に送って文科省が採点するという流れになると聞いています。

このヘッドセットは神戸市でも必要になります。平成30年度の予備調査で必要なものは文科省が手配してくれるということですが、平成31年度からは各教育委員会の判断で必要なものをそろえることになっていますので、仮にヘッドセットが必要だとすれば、約800万円が英語の調査のために必要になるということです。それ以外の変更点は特にありません。

2ページにお戻りください。2にあるとおり、神戸市としては、平成30年度調査に参加したいと思っています。

（雪村教育長）

2ページの一番下の神戸市の対応として、平成30年度調査に参加するということを決めていただくということですね。

（浦川教科指導担当課長）

はい。

(雪村教育長)

引き続き参加ということによろしいですか。

(6名の賛成により可決)

(雪村教育長)

ありがとうございます。

(浦川教科指導担当課長)

その次が公表方針です。4ページをお開きください。

平成30年度の全国調査の公表方針についてお諮りします。今年度と同様の方針案とさせていただきます。

5ページ以降は、文科省が発出した実施要領です。今年度変更になった部分や、重要な部分については下線を引いています。3年に1回実施する理科に関する部分や、英語の予備調査に関する部分ですが、それとは別に11ページをごらんください。

これは変わっているわけではなく、去年と同じですけれども、11ページ下段の(イ)の部分にあるように、市の教育委員会はそれぞれの判断において公表することは可能であること。また、学校名を明らかにした公表を行うことは教育上の影響等を踏まえ慎重に判断することと書かれています。

12ページの(ウ)は、学校についても自校の判断において公表が可能であることを示しています。(エ)の②には、そういった公表を行う場合は単に平均正答数、正答率などの数値のみの公表はせずに、調査結果について分析を行って、改善方法等も踏まえて速やかに示すようにということで、これは例年どおりとなっています。

参考までに、20ページに今年度実施した全国調査の公表方針をつけています。これを踏まえて、今年度は4ページの結果の公表方針のとおりとしたいと考えています。

かいつまんで申し上げますと、1として、神戸市全体の結果公表については、小中学校の教科区分ごとの平均正答率を速報値として公表すること。神戸基礎学力向上推進委員会等で分析して、改善策を含めてできるだけ早く公表すること。一方、2の学校別の結果の公表については、学校ごとの平均正答数、正答率等の数値は公表しないこと。あわせて各学校に対しては(1)から(3)までの指導をします。(1)学校間の序列化、過度の競争につながるため、正答率等の公表はしないでください。(2)保護者への説明責任を果たすため、公表から1カ月程度を目途に学校だより等で文章表記の形で公表してください。

(3)本調査で測定できるのはあくまで学力の特定の一部であり、教育活動の一側面にすぎないことをよく踏まえてくださいということにしています。

以上、公表方針としたいと考えています。

(雪村教育長)

4 ページの公表方針は、平成29年度の公表方針と変わっていないということですね。

(浦川教科指導担当課長)

はい、変わっていません。

(雪村教育長)

順番が変わっているだけで、あとは大体一言一句一緒と考えたらいいですか。

(浦川教科指導担当課長)

はい、一緒です。

(梶木委員)

英語の調査ですが、英語の調査を実施する学校は、ほかの学校よりどれぐらい時間が多くかかりますか。

(戎総合教育センター指導主事)

この表にあるように4時間ですけれども、実際に子供たちが実施するのは15分ずつです。学校全体としては半日かかりますけれども、子供たちは45分の筆記プラス15分の話すテストを受けます。

(梶木委員)

同じ日にしますか。別の日ですか。

(戎総合教育センター指導主事)

別の日にします。学校に、この日ならできるという候補日を上げていただいて、文科省に返事をしています。

(梶木委員)

そういう意味では、理科もふえるから、来年度はたくさん時間がかかりますね。

(森総合教育センター首席指導主事)

来年度はそうですね。

(浦川教科指導担当課長)

今のところ一番懸念しているのが英語です。来年度は2校だけですけれども、再来年度

から全国的にもいろいろなトラブルが起きそうな気がします。全国調査ですから、調査対象が100万人規模です。それを文科省がそんなに早く採点できるのかなと思います。

神戸市調査では「話すこと」はしていませんけれども、英語の調査は実施しています。神戸市調査の傾向を見ると、英語の成績は良好ですので、全国調査に英語が加われば神戸市全体の数値も上がるかなと思っています。

(梶木委員)

そのうち小学校に入ってくる可能性も大きいですね。

(雪村教育長)

入ってくるかもしれませんね。

(浦川教科指導担当課長)

小学校でも英語が教科化されるので、何年後かはわかりませんが、委員がおっしゃるとおり小学校でも実施するという話になると思います。

(雪村教育長)

ほか、何か御質問や御指摘はございませんか。

(今井委員)

今回の英語の調査対象校として、大規模校はこの学校で決まりですか。

(森総合教育センター首席指導主事)

はい。学校を指定されたわけではなく、何クラス以上の学校という指示があり、それに該当するのは1校しかないという状況です。

(今井委員)

そういうことなのですね。

(浦川教科指導担当課長)

大規模校でスムーズにできるかどうかを試験したいということで、具体的には10クラス以上ある学校でやってくださいという文科省のオーダーがあり、それに該当するのが井吹台中学校しかありませんでした。

(雪村教育長)

ほか特によろしいですか。

それでは、平成30年度の公表方針ですけれども、平成29年度どおりという形でよろしいですか。

(6名の賛成により可決)

(雪村教育長)

ありがとうございます。

それでは引き続き、主要行事の報告と予定について総務課よりお願いします。

その他報告事項 主要行事の報告と予定

(豊永総務課長)

主要行事の報告と予定ですが、12月18日以降の主要行事については記載のとおりです。記載はありませんが、1月12日に伊東委員が神戸市の小・中・特別支援学校の書き初め展に行かれています。

今後の主要行事予定ですが、1月17日は渚中学校の防災教育授業公開。18日木曜日はよい歯の表彰式。23日は第2回指定都市教育委員・教育長協議会となっています。24日水曜日は楠高等学校の防災教育授業公開。25日木曜日はKOB E こども音楽祭と、よいおこないをした児童生徒の表彰式となっています。

3、教育委員会会議日程ですが、1月29日月曜日の13時15分から定例会を予定しています。

以上です。

(雪村教育長)

主要行事について、御質問や追加はございませんか。

ないようでしたら、その他教育委員の皆さんから、教育委員会会議で取り上げるべき事項について、御意見はございませんでしょうか。

何かございましたら、また後日でも結構ですので、事務局までお伝えいただきたいと思います。

それではここで公開案件については全て終了しましたので、傍聴者の方は恐れ入りますが、御退席願います。

(傍聴者 退席)

(雪村教育長)

それでは続いて教第62号議案、建物等取得の件（葺合高等学校ほか）に関する意見決定

の件について、学校環境整備課より説明をお願いします。

教第62号議案 建物等取得の件（葺合高等学校ほか）に関する意見決定の件

（松浦学校環境整備課長）

本件ですけれども、8,000万円以上の財産の取得ということで、議会の議決が必要な案件です。市長より教育委員会の意見を聴取されていますので、異議なしの意見決定をさせていただきたいとお諮りするものです。

内容ですが、神戸すまいまちづくり公社において先行建設した葺合高等学校の学校施設、それから神港橋高校の一部学校施設をあわせて買い入れようとするものです。

3 ページをごらんください。市会議案の写しにより簡単に御説明します。

まず1 件目ですが、葺合高校の校舎、体育館、部室棟、管理作業室棟、倉庫を買い戻します。買い入れ金額は50億2,916万円余りです。

2 件目ですが、神港橋高校の体育館、プール、体育倉庫を買い戻します。買い入れ価格は20億8,619万円余りです。

5 ページから19ページに、各施設概要、校舎配置図等を添付していますので御参照ください。

なお、神港橋高校については、商業及び家庭科関連教室等、校舎の一部が国の交付金事業の対象になっています。平成29年度に交付金の申請を行っていますので、平成30年度に交付金対象である校舎の残額——約38億円になりますが、これを買い戻して全て終了です。

前回の教育委員会会議で舞多聞小学校の買い戻しの件をお諮りしましたが、高校については、まちづくり公社との協議に時間を要したため、今回の議案となっています。

具体的な市会の議案については、今回の高校分と、それから舞多聞小学校の分を一括して2 月市会に上程させていただく予定にしています。

なお、この金額については、一部、利息等の清算の関係で変動しますので、市会には清算後の金額で上程したいと考えていますので御了承をお願いします。

以上で御説明を終わります。よろしく御審議のほどお願いします。

（雪村教育長）

葺合高校と神港橋高校の建物取得の件について、いかがでしょうか。

（今井委員）

3 ページに葺合高校と神港橋高校の1 平方メートル当たりの買い入れ価格が書いてあります。葺合高校が約30万円で、神港橋高校が約49万円となっていますが、この差はどういうところから出てきているのか、参考までに教えていただけますか。

(福山学校環境整備課幼稚園高校再編担当係長)

葺合高校については、全て含めて単年度で買い戻すことになっています。神港橋高校については、平成29年度と平成30年度に分けて買い戻しますが、校舎建設に係る工事以外に、校舎解体などその他の工事費は全て平成29年度の買入れ価格に加わっています。その他工事費はかなり多額になっていますので、それを平米で割り戻すと、全体で割り戻すよりも高い単価になってしまうという弊害が出てまいります。これは2カ年で戻すと大体葺合高校と同じぐらいの平米単価になります。

(梶木委員)

議案の延べ面積の書き方ですけども、管理作業室棟は27平米ですか。

(松浦学校環境整備課長)

はい。別棟です。

(梶木委員)

すごく小さいですね。

(松浦学校環境整備課長)

はい。

(雪村教育長)

ほか、何か御指摘ございませんか。

なければ教第62号議案、異議なしということで市長に返してよろしいですか。

(6名の賛成により可決)

閉会：午後4時35分